

1 第1回での委員の意見

- (1) 【準要保護の就学援助費について】
 ○現在は入学後の7月頃に支給されており、入学準備金がないという状況なので、入学する前に前倒しで支給することはできないか。
- (2) 【子どもの生活実態調査について】
 ○静岡市の子どもたちの生活の実態がどうであるかの調査を始めるところであり、その速報値を基に、次回以降の議論を進めたい。

2 協議のポイント

- (1) 【準要保護の就学援助費について】
 ○新入学児童生徒学用品費等の支給時期の前倒しについて、9月補正予算議案として上程済み。
- (2) 【子どもの生活実態調査の速報値について】・・・資料1
 ○生活実態調査の速報値から読み取れることはどのようなことか。

3 今後、検討が必要な取り組み

○子どもの生活実態調査結果から、貧困の連鎖を断ち切るために、どのような取組が必要か。

資料1 【静岡市子どもの生活実態調査 速報値について】

(1) 調査の概要
①市民アンケート
 【抽出方法】
 ・5歳、16歳
 住民基本台帳から無作為抽出
 ・10歳、13歳
 全小学校の5年1組及び全中学校の2年1組（全校生徒500人以上は2年2組まで）

調査対象	調査期間	調査方法	配付数		回収状況		
			保護者	子ども	件数	回収率(%)	
一般	7/12~8/4	郵送	5歳(年中)	—	701	46.73	
			10歳(小5)	2,031	2,031	1,056	51.99
		学校配付 郵送回収	13歳(中2)	1,570	1,570	691	44.01
			16歳(高2)	1,500	1,500	416	27.73
一般計			6,601	5,101	2,864	43.39	
制度利用世帯(0~17歳)	7/24~8/4	郵送	2,000	2,000	580	29.00	
合計			8,601	7,101	3,444	40.04	

【制度利用世帯】
 生活保護、児童扶養手当、就学援助制度を利用している世帯から無作為抽出

②支援者ヒアリング・アンケート

- ヒアリング：児童養護施設（2か所）、母子生活支援施設（1か所）、母子寡婦福祉会（1か所）、民生委員・主任児童委員（3か所）、「学習支援・生活支援」行う団体（2か所）
- アンケート：市立小中学校、こども園、幼稚園、保育園、SSWr、各区窓口課（子育て支援課、生活支援課）、保健福祉センター、児童館・放課後児童クラブ（計284か所）

(2) 市民アンケート結果概要（速報値暫定版）【別紙3-1参照】

<主な結果（単位：％）>

①自宅や学校以外の場所で、落ち着いて過ごせる居場所を利用したいと思うか
 (別紙3-1 P6 子ども問4)

	13歳					16歳					制度 総計
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	
そう思う	20.4	20.2	16.3	17.4	18.5	21.2	20.8	18.7	21.4	20.2	19.6
どちらかというと思う	27.8	32.7	35.9	24.6	32.3	27.3	30.8	33.3	25.7	30.3	28.6
どちらかというと思わない	24.1	21.1	23.4	24.6	22.6	21.2	15.8	22.0	17.1	18.8	18.4
そう思わない	25.9	23.8	21.7	31.9	24.3	27.3	29.2	23.6	35.7	28.3	29.0
無回答	1.9	2.2	2.7	1.4	2.3	3.0	3.3	2.4	0.0	2.3	4.3

②事業の認知度
 (スクールソーシャルワーカー)
 (別紙3-1 P3 保護者問5③)

	10歳					13歳					制度 総計
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	
知っていて、利用もしている	2.2	3.1	1.5	0.0	2.1	0.0	0.9	0.5	2.8	0.9	3.6
知っているが、利用していない	61.1	65.9	66.9	70.7	66.3	57.4	68.7	66.5	57.7	65.4	49.8
知らなかった	30.0	28.5	28.9	27.3	28.6	37.0	28.2	29.7	36.6	30.7	38.8
無回答	6.7	2.5	2.7	2.0	3.0	5.6	2.2	3.2	2.8	3.0	7.8

③お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えなかったことがあるか
 (別紙3-1 P1 保護者問1)

	10歳					13歳					制度 総計
	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	階層Ⅰ	階層Ⅱ	階層Ⅲ	階層Ⅳ	総計	
ある	24.4	8.4	0.8	1.0	6.9	22.2	10.6	2.7	0.0	7.6	
これまでにないが、今後その可能性がある	30.0	28.2	9.9	4.0	19.9	27.8	22.0	17.8	9.9	19.6	
これまでになく、今後もその可能性はない(可能性は低い)	44.4	62.8	88.2	94.9	72.5	48.1	67.0	78.9	90.1	72.3	
無回答	1.1	0.5	1.1	0.0	0.7	1.9	0.4	0.5	0.0	0.6	

(3) 支援者ヒアリング・アンケート結果の概要（主な意見）

- ①困難を抱えている家庭(親子)の課題**
- ・学習面で問題（勉強の遅れ、宿題ができない）がある
 - ・衣食住など基本的な生活習慣が確立されていない
 - ・周囲との関わりがない、あるいは苦手で孤立していることがある
 - ・親子間の関わりが十分でない
 - ・保護者が心身の不調を抱えている
- ②支援における課題や今後検討が必要と考えられる取組**
- ・学習支援の場や居場所をつくる
 - ・子どもに関わる関係機関の連携
 - ・各支援策の情報提供、周知
 - ・相談、窓口体制の充実
 - ・スクールソーシャルワーカーなどの専門職のさらなる活用
 - ・保護者への経済的支援や就労支援の充実

【子どもの生活実態調査 速報値から推察される課題と検討が必要と考えられる取組】

○調査から推察される課題

○検討が必要と考えられる取組

①子どもの学びの支援と居場所づくり
 【別紙3-1】(保)問3, 6(子)問1, 2, 3, 4, 5

②支援に結びつけるための相談窓口等の充実と関係機関の連携
 【別紙3-1】(保)問5, 6(子)問1

③生活困窮世帯などに対する就労・経済的支援
 【別紙3-1】(保)問1, 2, 4, 6(子)問1

- ・学びの支援
- ・放課後児童クラブや放課後子ども教室などをはじめとする放課後等の居場所の充実
- ・スクールソーシャルワーカーや奨学金など、既存事業の効果的な周知の実施
- ・適応指導教室や面接相談の充実
- ・スクールソーシャルワーカーの活用の充実
- ・教育、福祉、保健機関の連携
- ・利用料減免や各種手当等、保護者負担軽減制度の充実
- ・資格取得や就労面談等に関する支援の充実